

1. 設立のきっかけ

平成17年に石狩市・厚田村・浜益村が合併し、村から地域自治区になりました。このとき地域振興のための基金1億円が用意されましたが、その活用方法などを協議する場として地域住民15名で構成される地域協議会が組織されました。あつたライフサポートの会はこの地域協議会の中で地域課題として浮かび上がった交通問題、および除雪問題に対処するために結成されました。

交通問題が課題ではありましたが、特に地域内を走るバス路線は高校生の通学、高齢者の通院などに欠かせないものでした。既存のバス・タクシーなどの交通事業者との共存できる形での解決が求められていました。既存の協議では難航する部分もありましたが、経済的な競合が課題というよりは安全性など「人を乗せて運転すること」に対する指摘が大きい内容でした。こういったことも協議を続けるなかで徐々に理解してもらいました。除雪に関しても同様で、市の事業であるひとり暮らし高齢者世帯等除雪サービスなどと重複しない範囲として、窓際や物置・車庫の屋根の上などの除雪を請け負っています。

2. 組織形態・構成員

- [サポーター]：24名（平均年齢70歳代前半）
→移送事業のサポーターは女性が多い（当初から過半数）
会社社長、パート従業員、農業者、地域おこし協力隊員など
- [利用者会員]：30名（区内在住が条件、年会費1,000円）
→実際の利用者は高齢者が中心です。日常生活に支援を求めていれば会員になれます。

3. 現在の活動内容

移送事業と除雪事業の2つ

有償で行う事業としているが、頼む側が気を使いすぎないようにという意味合いがあります。またサポーター側の責任感にもつながると考えています。

【移送事業】：交通空白地有償運送の登録認証を受け実施

利用者の居宅から①最寄りのバス停留所、②最寄りの集会施設、③最寄りの高齢者福祉施設への移送を行います。病院等で市街地、札幌へ行くためバス停まで、高齢者クラブへ参加するために集会施設までの移動に利用されています。

【利用可能時間】：平日9:00～16:00（予約制、原則3日前までに電話で連絡）

【利用者料金】：1kmごとに料金を設定（例：1kmまで250円、5kmまで650円）

→地区内タクシー料金の半額を上限。

3. 現在の活動内容（つづき）

〔サポーター報酬〕：ガソリン代＋人件費（1,000円/h）

→サポーターの自家用車を利用（任意保険など条件あり）

〔サポーター要件〕：第二種運転免許もしくは第一種運転免許＋所定の講習を修了

〔延べ利用者数〕：コロナ禍前で年間500～600名、コロナ禍では200～300名程度。

厚田区内を厚田、望来、聚富の3つのエリアに分け、それぞれの範囲内で利用者とサポーターを組み合わせてサポーターの負担を少なくしている。

【除雪事業】

窓際や裏口、車庫・物置の屋根の上などの除雪を行います。作業は2人1組で実施しています。（玄関前から公道までの除雪は対応範囲外→石狩市の事業を利用できるため）

〔除雪料金〕：1時間まで1回3,000円、以後10分ごとに250円

〔依頼件数〕：積雪量により異なるが1桁から20件程度の範囲

4. 活動資金

〔収入〕：利用料金、利用会員の年会費が基本

PR活動の一環として「厚田ふるさとあきあじ祭り」で出店し、収益の一部としています。

〔支出〕：サポーター会員への報酬支払のほかにボランティア保険、サポーターとなるための講習代への補助、予約受付用の携帯電話料金など

地域振興のための基金は活動開始時のパソコンやプリンター、移送事業に使用する車両へ貼り付けるためのステッカーなどに利用したが、以後の運営には利用していない。

5. 活動を続けていてよかったこと

もともとご近所同士での助け合いが地域の風土としてあり、これをベースとして活動がつづいています。

サポーターは、高齢者から「家族と同居していても忙しい時期に車での送迎を頼まずにすみ、気兼ねなく高齢者クラブにでられるようになった」という感謝の声を聞いたり、除雪のお礼をいわれてお茶を出してもらうことがあり、そういったことにやりがいを感じています。

6. 今後の目標・見通し・課題

新しいサポーターの増員が直近の課題であり、報酬の向上などにより解決を模索しています。また、高齢化がさらに進みバスにも乗れない、乗らなくなっている人が増えてきています。将来的にはこの課題に対応する備えを進めることが必要と感じています。

・地域の実情に応じた事業制度設計、および日々の運営が重要だと感じる事例です。また運営利用者、支援者双方にとっての有償であるという意義がポイントと考えます。

1. 設立のきっかけ

町はこれまで、住民の足としての公共交通事業の充実のため、令和元年から高校生の定期代の2/3補助や、江差高生徒の部活後の帰宅対策として財政支援している函館バスの夕方便の出発時刻変更などを実現してきました。そのような状況の中で、令和3年6月6日に発生した館浦地区トンネル周辺の崩落事故により、鳥山・館浦間が通行止めとなり、その復旧には7～10年程度要する見込みとなりました。それに伴う回路（17km）が設置されましたが、函館バスの運行は通常より時間を要するとともに各方面への接続の見直しが行われ運行本数が減少するなど、その利便性が損なわれたままでした。そのため住民アンケートによる公共交通事業への要望も踏まえ、町内の新たな交通手段として需要に的確に対応した利便性の高い乗り合い型デマンドタクシー事業を令和3年から開始しました。

2. 組織形態・構成員

[タクシー運行]：「おとべハイヤー」へ町が事業委託

[予約受付]：「おとべ創生株式会社」へ町が事業委託

(正職員2名、地域おこし協力隊員2名、パート2名で構成)

3. 現在の活動内容

土砂崩れの影響を受けた豊浜～緑町間のデマンドタクシー、江差高校の部活後の帰宅用デマンドタクシーの2つの取組を実施。いずれも予約があったときのみ運行。

デマンドタクシーは車両1台体制での運行

(地方創生臨時交付金を活用して新規購入)

【豊浜～江差病院間】

[路線]：豊浜－江差病院前間（国道229号線の函館バス路線）

[運行日]：午前 平日毎日運行、

午後 月・水・金（祝日は運休、月曜祝日の場合は火曜運行）

[運行本数]：1日あたり2往復（時刻表の設定あり）

[予約]：乗車前日17：15までに電話で予約

[料金]：200円～1,050円（乗降したエリアごとに設定）

江差病院前行では乙部町中心部では降車場所を予約時に指定可能（役場・病院・信金・郵便局・病院など）。豊浜行では路線上の予約時に指定した場所で自由に降車可能。

函館バスの運行時刻の間隔が2時間から最大4時間ありますが、その空白の時間帯を運行しており利便性は高いと考えています（令和4年10月に39名利用）。この路線は令和3年度から令和4年度を実証運行とし、令和5年4月から本格運行に移行する予定です。

3. 現在の活動内容（つづき）

【江差高校部活後帰宅】

【運行時間】：平日19：10発

【予約】：乗車前日（平日）8：30～17：15に電話、またはインターネットから予約
インターネットからの予約は道の関連事業の補助により、必要最小限の機能を備えたものを167万円で開発。

【料金】：450円～900円（降車エリアごとに設定）

→有効期間中のバス定期券を持っていれば無料

江差高生徒の部活後の帰宅に利用する函館バスの最終便が18：00発のため、江差高校前バス停を19：10発としたデマンドタクシーの運行を行っています。令和4年10月より本格運行を開始しましたが、実証実験期間を含めて10月までにのべ265名利用しています。

表 高校生利用料金

降車場所	滝瀬～ 館浦地区	姫川～ 富岡地区	烏山～ 栄浜地区	元和～ 三ツ谷地区	潮見地区	花磯～ 豊浜地区
定期券なし	450円	500円	600円	700円	800円	900円
定期券あり	無料					

資料：乙部町資料より作成。

4. 活動資金

【タクシー運行委託料】：月8万2,000円を最低保証 運行実績に満たない部分を支出
事業全体としては、町の支出として令和4年度に約500万円を見込んでいる。

5. 活動を続けていてよかったこと

取組は始まったところであるが、日頃からの地域住民とのコミュニケーションによるニーズの把握によって、突発的な災害に対し迅速な事業開始ができたと感じています。

6. 今後の目標・見通し・課題

利用者の評価は高くリピート利用がありますが、コロナ禍の影響を受け当初計画よりは低い利用にとどまっています。また事業開始間もないこともあり町民への周知不足を感じ、今後対策が必要と考えています。町としては豊浜～江差病院間の事業はまだ実証段階と位置付け来年4月からの本格運行を見据え、5年程度のスパンで利用者からの意見を取り入れながら改善・改良（乗り合い範囲拡大等）を加えたいと考えています。

・行政として交通問題に対する潜在的なニーズを的確に把握していたため、崩落事故という突発的な出来事に対し地域住民の移動手段の確保に迅速に対応できたといえる。今後の長期的視点に立った事業展開を注視して行きたい。